



水稲用一発処理除草剤

WCS用イネにも
使えます!!

ベスト

FG
畦畔散布OK
ドローン散布OK

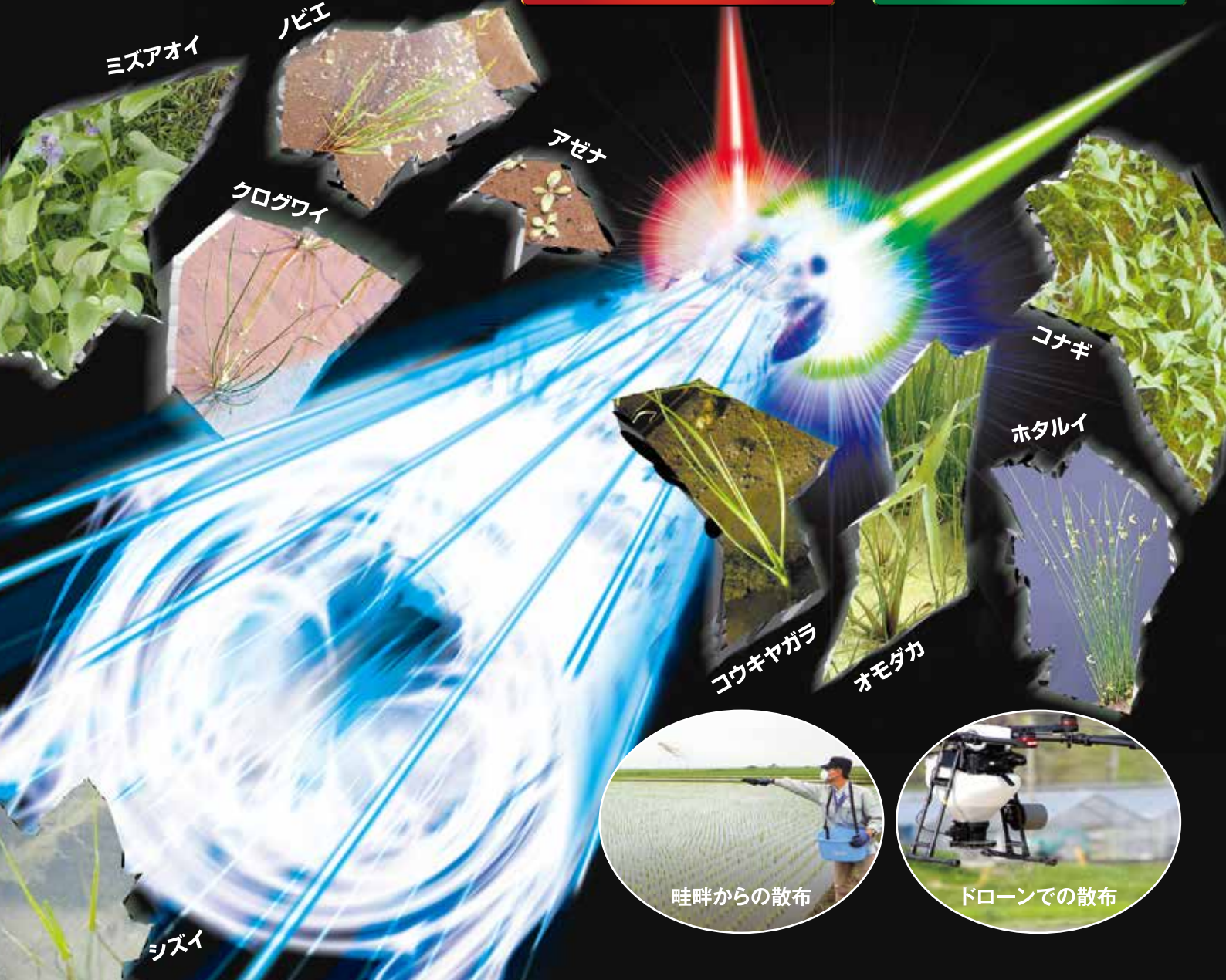
400FG

®は協友アグリ(株)の登録商標です。

2成分で強力除草

ピラクロニル
ノビエを始め広葉、カヤツリグサ科、SU抵抗性雑草にも幅広く、速効的に効く

プロピリスルフロン
新規ALS阻害剤
高葉令(3葉期)のノビエ、SU抵抗性を含む各種難防除雑草に有効



ミズアオイ

ノビエ

アゼナ

クログワイ

コナギ

ホタルイ

コウキヤガラ

オモダカ

シズイ



畦畔からの散布



ドローンでの散布



■有効成分(一般名)ピラクロニル:5.0% プロピリスルフロンの2.25% ■人畜毒性:普通物*
*毒物及び劇物に該当しないものを指している通称

特長

~FG剤(Floating Granule)とは~

- ①軽量かつ水面を自己拡散する新しい製剤です。
- ②圃場の大小に関わらず畦畔から散布可能で、散布の労力と時間の低減に貢献します。
- ③ドローンでも散布可能です。1キロ粒剤より軽く、短時間に散布できるためバッテリー消費を節約できます。ドローン散布時は、畦畔から大きく離れて散布することで、突風時のドリフトリスクを軽減できます。



適用雑草の範囲及び使用方法

2021年7月現在の登録内容

作物名	適用雑草名	使用時期	10a当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法	ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	プロピリスルフロンの 農薬の総使用回数	雑草名	散布適期
移植水稲	一年生雑草 及び 多年生広葉雑草 アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後5日~ ノビエ3葉期 ただし、 収穫60日前まで	400g	1回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機 による散布	2回以内	2回以内	ノビエ	3葉期まで
								ヘラオモダカミズガヤツリ ホタルイ・ウリカワ	3葉期まで
直播水稲	一年生雑草 及び ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワ ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	稲1葉期~ ノビエ3葉期 ただし、 収穫60日前まで	400g	1回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機 による散布	2回以内	2回以内	ヒルムシロ	発生期まで
								セリ	再生前~再生始期まで
								オモダカ・クログワイ コウキヤガラ	発生始期まで
								シズイ	草丈3cmまで
								アオミドロ・藻類による 表層はく離	発生前まで

湛水周縁散布での上手な使い方

風上側の畦畔1~2辺から圃場に向かって投入する。
1袋を数回に分けて散布する。



本剤を十分に拡散させるためには



⚠ 使用上の注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに時期を失しないように使用してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に使用するようご注意ください。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは3葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前までが本剤の使用適期です。
- 藻類または表層はく離の発生しやすい水田では、有効な剤との組み合わせで使用してください。
- 苗の植え付けが均一になるように整地、代かきは行い、ワラくすなどの浮遊物はできるだけ取り除いてください。また、未熟有機物を施用した場合は特にいぬいに行ってください。
- 湛水散布または湛水周縁散布にあたっては、やや深めの湛水状態(水深5~6cm)にして水の出入りを止めてください。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態(水深3~5cm)を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻を止めて通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じてください。
- 藻や浮き草が多発している水田では拡散が不十分となり、部分的な薬害や効果不足の可能性があるので使用をさけてください。
- 直播水稲で使用する場合、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - ・散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - ・専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - ・事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - ・散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離れた位置からは場内に散布してください。
 - ・水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意してください。
- 以下のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけてください。特に、処理時または処理後数日以内に異常高温が重なる場合は、初期生育の抑制が顕著になるので注意してください。
 - ・砂質土壌の水田および漏水の大きな水田(減水深が2cm/日以上)。
 - ・軟弱な苗を移植した水田。
 - ・極端な浅植えの水田。
- 梅雨期等、処理後に多量の降雨が予想される場合には、除草効果が低下することがあるので使用をさけてください。
- 吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早めにご使用してください。
- 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用してください。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さない場合がありますので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 本剤はその殺草特性から、いくさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意してください。
- いくさ栽培予定水田では使用しないでください。
- 本剤を使用した水田の田面水は、他作物の灌水に用いないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 貯蔵上の注意事項
直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

★使用前にはラベルをよく読んでください。★ラベルの記載以外には使用しないでください。★本剤は小児の手が届く所には置かないでください。★空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。